

2012年3月期 第1四半期 連結決算ハイライト

前年同期比で、増収増益。

売上高	2,390 億円	5.8%	増収
営業利益	48 億円	10.5%	増益
経常利益	38 億円	5.1%	増益
当期純利益	27 億円	21.3%	増益

損益の状況

(単位:億円)	2012/3期 第1四半期実績		前年同期比		2012/3期 通期		見通し	進捗率
	2011/3期 第1四半期実績	2012/3期 第1四半期実績	増減額	増減率	見通し	進捗率		
売上高	2,259	2,390	131	5.8%	9,500	25.2%		
売上総利益	184	192	8	4.4%	-	-		
販売費・一般管理費	141	144	4	-	-	-		
営業利益	43	48	5	10.5%	170	27.9%		
受取配当金	2	2	1	-	-	-		
利息収支	9	9	1	-	-	-		
持分法損益	2	1	1	-	-	-		
為替差損益	2	1	1	-	-	-		
その他	1	2	2	-	-	-		
営業外収支	6	9	3	-	-	-		
経常利益	37	38	2	5.1%	120	32.0%		
特別利益	3	1	3	-	-	-		
特別損失	8	1	6	-	-	-		
税引前当期純利益	32	38	6	17.9%	-	-		
法人税等及び少数株主利益	10	11	1	-	-	-		
当期純利益	22	27	5	21.3%	55	48.7%		

【売上高・売上総利益】
国内外の需要回復や商品価格の高騰などにより、売上高は増加。売上高の増加にともない売上総利益も増益。

【営業利益】
売上総利益の増加に対し、販売費及び一般管理費増加の抑制に努めた結果、増益。

【経常利益】
持分法による投資損失が改善した一方、為替差益が減少し営業外収支は悪化した。営業利益の増加により、増益。

【当期純利益】
大きな特別損益の発生もなく、営業利益・経常利益の増益を反映し、増益。

資産・負債及び純資産の状況

(単位:億円)	2011年3月末		2011年6月末		2011年3月末比	
	2011年3月末	2011年6月末	増減	増減率	増減	増減率
総資産	3,887	3,908	21	0.5%		
グロス有利子負債	1,736	1,756	20	1.1%		
ネット有利子負債	1,046	966	80	7.7%		
株主資本	637	664	27	4.2%		
(内、利益剰余金)	89	116	27	29.8%		
その他の包括利益累計額	306	311	5	-		
少数株主持分	165	165	0	0.2%		
純資産合計	496	518	22	4.4%		
自己資本(注1)	331	352	21	6.5%		
自己資本比率(注2)	8.5%	9.0%	0.5pt	良化		
ネットDER(注3)	3.2倍	2.7倍	0.5pt	良化		

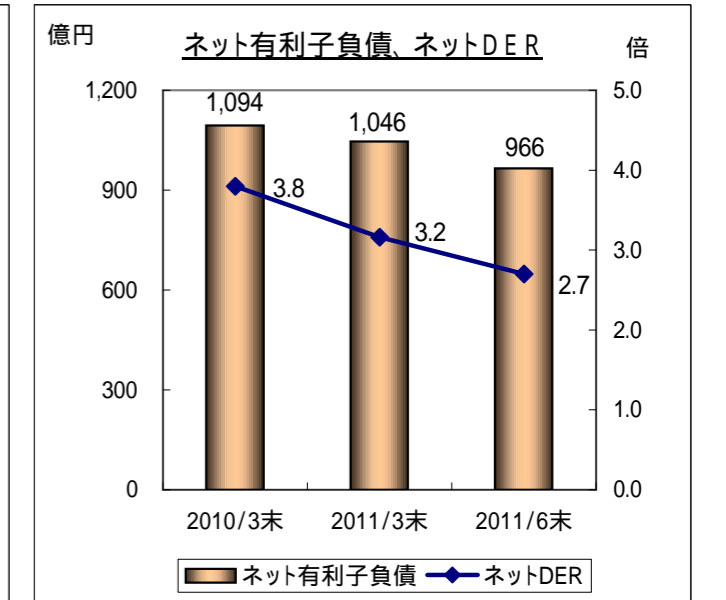
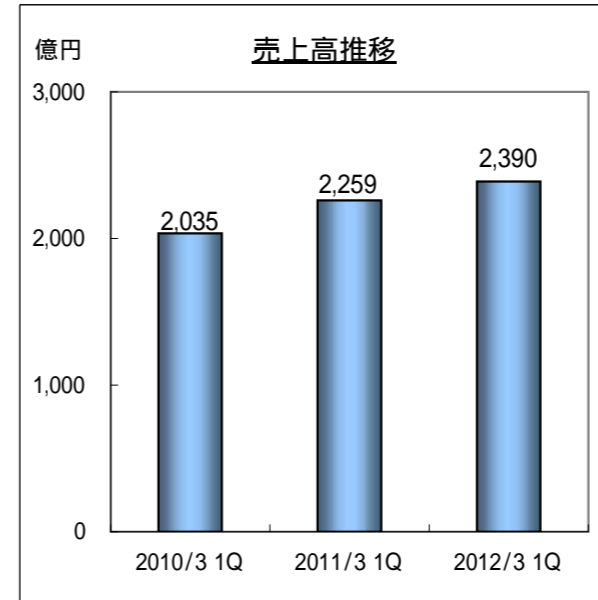
【総資産】
営業債権の回収により現預金が増加したが、総資産全体としてはほぼ横ばい。

【有利子負債】
グロス有利子負債は20億円の増加。一方、現預金の積み上げにより、ネット有利子負債は80億円減少。

【純資産】
その他有価証券評価差額金が悪化した。四半期純利益の計上にもなう利益剰余金の増加により、純資産は22億円増加。純資産から少数株主持分を除いた自己資本は、21億円増加。

上記の結果、自己資本比率は9.0%、ネットDERは2.7倍に改善。

(注1)自己資本 = 純資産 - 少数株主持分 (注2)自己資本比率 = 自己資本 / 総資産 (注3)ネットDER = ネット有利子負債 / 自己資本



セグメント情報

(単位:億円)	売上高(外部売上高)			営業利益		
	2011/3期 第1四半期	2012/3期 第1四半期	前年同期比 増減	2011/3期 第1四半期	2012/3期 第1四半期	前年同期比 増減
電子・IT	628	573	55	23	18	6
食品・食糧	716	731	14	12	15	4
鉄鋼	235	279	43	6	10	3
機械・プラント	135	153	18	0	0	0
環境・素材	504	613	109	1	3	2
報告セグメント合計	2,218	2,348	130	42	46	4
その他(含む調整額)	40	41	1	1	2	1
総合計	2,259	2,390	131	43	48	5

【電子・IT】 減収減益
北米・欧州向け二輪・四輪車載部品等の機構部品事業が堅調に推移。ICT・モバイルソリューション事業もスマートフォン市場の拡大を受け順調に推移。一方、半導体部品・装置事業は低調。

【食品・食糧】 増収増益
畜産事業は輸入畜産物の需要増加により好調に推移。需給環境が比較的安定していた食品事業も全般的に好調に推移。食糧事業は引き続き厳しい外部環境が続いたものの販路拡大等により堅調に推移。

【鉄鋼】 増収増益
海外向け自動車用線材の取引が堅調に推移。また北米向け特殊鋼の出荷が活発化し、全体の収益を押し上げ。

【機械・プラント】 増収、利益横ばい
自動車部品関連取引は、震災によるサプライチェーンの寸断等の影響を受け、低調に推移。プラント関連取引は順調に推移、工作機械事業も、需要回復により堅調に推移。

【環境・素材】 増収増益
機能性化学品事業での車載用電池原料の輸出が伸長し、潤滑油、樹脂原料など化学品全般が堅調に推移。エネルギー事業は、海外原油価格が高値推移する一方、電力会社向けの需要増を追い風に堅調に推移。



* 本資料に記載されている業績予想ならびに将来に関する記述は、当社が発表日現在入手可能な情報および合理的な仮定に基づいた推測を前提としたものであり、実際の業績は様々な要因により本資料に記載されたものと大きく異なる可能性があります。ご了承ください。
* 記載の数値は億円未満を四捨五入しておりますので、個別数値と合計数値が異なる場合があります。